

基礎的・汎用的能力の 4 つの視点

学校の目標と児童生徒の実態から、授業で育てたい力を具体的な行動で表します。

正式名称	授業で見取る行動の例
人間関係形成・社会形成能力	相手の考えを確かめ、自分の役割を相談する。
自己理解・自己管理能力	自分の得意なことや困り事に気づき、助けを求める。
課題対応能力	疑問の原因を調べ、方法を試して見直す。
キャリアプランニング能力	経験と学びのつながりを考え、次にすることを選ぶ。

4 つの能力は互いに関わります。重点にする姿は、学校と児童生徒の実態から選びます。上の行動は本資料の例です。全員に同じ水準を求めるものではありません。

育てたい力と授業の設計シート

既存の単元・行事を 1 つ選び、今回の重点を 1 ～ 2 点に絞る使い方の例です。

確認する項目	記入欄（案内文は書き換えて使えます）
対象・教科等・単元・時期	
児童生徒の声と現在の姿	発言・作品・観察など、根拠を添える。
重点にする能力と目指す姿	「誰が、どんな場面で、何をするか」で書く。
行動する場面と必要な支援	相談・選択・やり直しの機会も用意する。
見取りの方法と時期	授業前後の言葉、作品、活動中の記録など。
次の授業につなぐこと	どの授業・生活場面で、いつ確かめるか。

低学年や支援が必要な児童生徒には、絵・口頭・代筆などで参加できる方法を選びます。

今日の自分と、次にやってみること

日付

年

組

名前

活動名

1 心に残った場面は？ 何をしたかな？	2 自分で考えたことや、 人と力を合わせたことは？
3 気付いた自分のよさや、 助けてほしいことは？	4 次に気になることや、 試したいことは？ まだ考え中でも OK。

ことばでも、絵でも、先生に話してもだいじょうぶ。話す相手や、見せるところは相談できます。

振り返りシートの記入例

書き方の例です。本人の経験と言葉を大切にして、対話に生かします。

1 心に残った場面は？ 何をしたかな？ 係の準備で、同じ物を2人が 用意していた。	2 自分で考えたことや、 人と力を合わせたことは？ 友達と相談して、 準備を半分ずつ分けた。
3 気付いた自分のよさや、 助けてほしいことは？ やることを分けて考えられた。 困ったら早めに相談したい。	4 次に気になることや、 試したいことは？ まだ考え中でもOK。 明日の係活動の前に、 必要な準備と一緒に確かめる。

前のページの白紙シートを使い、次にすることや、相談したいことまで一緒に考えられます。

05 の授業と振り返りの例

以下は架空の例です。学校の目標や児童生徒の実態に合わせて組み替えます。

校種・場面	目指す姿・使い方	児童生徒の言葉の例
小学校 係活動	友達と役割を相談する	準備が重なったので、2人で分けた
中学校 職場体験の事前学習	聞きたいことを理由と一緒に伝える	働く人が大切にしている工夫を聞きたい
高校 地域課題の探究	根拠を確かめ、提案を見直す	利用者の声が足りないので、調査を追加する

記入例は小学校の係活動。重点は人間関係形成・社会形成能力。先生は「準備の重なりに気付
き、分担を相談した」という場면을記録します。

次の行動の例：明日の係活動の前に、必要な準備を友達と確かめる。

10 分の校内研修と参考資料

既存の学年会などで使えます。最後に、授業で試すことと確認日を 1 つ決めます。

2 分：既存の単元から、育てたい姿を 1 つ選ぶ。

5 分：児童生徒の言葉・行動として表せているか、2 人で確かめる。

3 分：観察する場面と、次の授業へのつなぎを決める。

文部科学省の参考資料

中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023 年 3 月）第 1 章 pp.21-22、25

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

小学校キャリア教育の手引き（2022 年 3 月）第 1 章 pp.19-20、第 3 章 p.67

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_01951.html

本資料は手引き等を参考にした吉田正之のオリジナル資料です。文部科学省の公式様式ではありません。
学校内の授業・研修に印刷・編集して使えます。ページ番号は冊子の表記です。

係活動の役割を相談する 45 分

モデル案：小3～4・学級活動。係活動で試す役割や準備の方法を話し合う場面です。

ねらい：相手の考えを聞き、自分の希望と合わせて役割を相談する。
準備：今の係ボード、付箋、観察メモ。児童の声の例『同じ物を 2 人が用意した』から考える。

時間	子どもが考え、行うこと	先生の問い・関わり
5 分	今の係活動で気になる場面を選ぶ。	『どの場面で困った？』場面を確かめる。
8 分	自分がしたいことと、必要な準備を書く。	話す・描く・付箋から選ぶ方法を用意。
12 分	希望と準備を比べ、役割の案をつくる。	『2 人の案を合わせると？』意見を並べる。
10 分	役割と、困ったときの相談先を選ぶ。	全員の担当や負担を一緒に確認する。
10 分	選んだ理由と、試して確かめたい点を残す。	実際の係活動で確かめる日を相談する。

見取り：役割を相談した場面と本人の理由を記録。発言の多さで判断せず、付箋や対話も使います。学校の計画に合わせ、日々の活動と学級活動での振り返りにつなぎます。

係活動の観察メモと支援の例

上 2 行は架空の記入例。下の空欄は、自校の授業で書き換えて使えます。

見た場面	本人の言葉・行動という事実	先生が次に用意する支援
役割を相談したとき	『絵を描きたい。運ぶ人も必要』と付箋に書いた。	希望と必要な役割を並べ、相談する時間を取る。
準備が重なったとき	友達と『半分ずつ用意しよう』と話した。	実際の活動で分担が機能したか本人に聞く。
場面：	言葉・行動：	支援・確認する日：
場面：	言葉・行動：	支援・確認する日：

『協調性がある』などの性格の決め付けを避け、見聞きした場面を記録します。学校が重点を選び、同じ水準を一律に求めず、本人に必要な支援を考えます。